

# 命を守るため

上野村立上野小学校 四年 作 忠之

ぼくはニュースで熱海の土砂災害を見ました。土石流に飲まれ、道路などがもう見えなくなり家の屋根などが流されてすぐこわいなと思いました。調べたら土石流の速さは、時速20キロから40キロだということを知りました。車ぐらいの速さだと思いました。それだと、速い陸上選手でも、ましてやリュックを背負ってすぐ後ろにせまっている土石流から走ってにげることはとてもできないと思いました。

ぼくは、ぼくの家の近くで土石流が起きるのかなと思って、お父さんにハザードマップを見せてもらいました。

そうすると、すぐ近くで起きる可能性があると分かりました。十分に注意しなければいけないなと思いました。注意するためにどんな前兆があるか調べたら、井戸の水が茶色くなることや、水が地面からふき出ることや、石がゴロゴロ落ちてくることがあると分かりました。なので雨がふった時には時には注意してみたいと思います。

あと、前に台風でがけくずれで道がふさがって、遠回りをして学校に行った時がありました。ぼくは土砂が道をふさぐぐらいのいりよくがあるんだと思ってこわいなと思いました。

他にも学校からもらった防災ブックを見てみました。そこには防災ブックを見てみました。そこには災害の前にやること書いてありました。ちゃんとやってるなあと思ったのは、非じょうもち出しぶくろのおき場を決めることでした。でも、家族の役わり分たんというのは決めてなかったので、ちゃんとこれから決めたいと思います。

雨がふってからは、ニュースを見たり、雨雲レーダーを見たりします。もし、ひなんするときには、指示が出たらすぐひなんします。昼間のうちにするようにしたいと思います。それと、ぼくはつりが好きです。ぼくの近くの川は水がきれいでヤマメやイワナ、カジカなどがいます。土砂災害をふせぐ砂防えんていというものはつりのときにも見ているものだというからお父さんに教えてもらって分かりました。そう思うと砂防えんていつてたくさんあるんだなあと思いました。他に砂防えんていには魚道があつて、そこに住んでいた魚が台風などで押し流されてしまつて、元にもどつてこようとするとときに役立ちます。魚10メートルくらいのかべを飛びこすことはもちろん出来ません。だから魚道で、もといた場所に帰ることが出来ます。砂防えんていは人の命を守るくらい強いものなのに、魚のことも思つて魚道をつくつてすごいなと思いました。それで、この魚たちも土砂災害を防ぐ砂防えんていのおかげで土砂にうまらずに生きていられるのだなと思いました。砂防えんていは土砂災害からみんなを守つてくれていて強くてたよれるそんざいなんだなと思いました。

ぼくは「いつも用心している人は幸福だ」という言葉を聞いたことがあります。それでぼくのできることで土砂災害に気をつけていきたいです。